

ソフト系IT産業誘致等検討グループ 中間報告

平成 19 年 8 月 20 日(月)

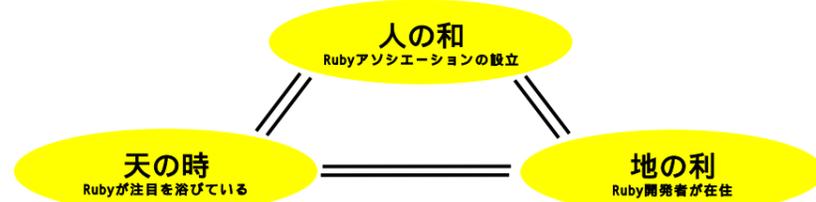
報告のイメージ図



2. 島根らしさ

特色をもって、アピールを

Ruby・OSS を武器に、言語のまちをアピール



Ruby アソシエーションへの出資・協力。(産学官による研究機関の設立)
国際会議や研究会議等、Ruby・OSS・言語に絡む会議の開催・コミュニティづくり。
県職員パソコンを Linux 化 (県が OSS を推進することを積極アピール+コスト削減)。

出雲の神々が守る、データセンター

データセンター、ASP(アプリケーションサービスプロバイダー)などの誘致を狙う。
#地震等の自然災害の少なさ、地価の安さ、都会から遠いという点から、データセンターの立地条件として、島根はすぐれている。加えて、松江市には、電気料金半額助成制度があることも有利。また、PFI 方式等により、県が独自にデータセンターを作ることも検討。



デジタルコンテンツでしまねを PR

マーケティング・著作権管理が重要。そこで、テクノアークに専門家を置き、設備の利用を促進するとともに、制作者のマネージメント能力強化を高める。



#最近の蛙男商会の活躍などにより、島根の知名度は上がっている。島根の自然・文化・風土を生かしたデジタルコンテンツを広く商業ベースに載せるためのマネージメントが必要。

高齢者・団塊世代、地域医療、介護に特化

島根が高齢化県であることを逆手にとって、医療・介護・福祉に特化したシステム開発のモデルを作る。
また、団塊世代の IT 能力を SOHO や企業のマネージメント・プロデュース能力に活用。

地元産業も IT 化

県内 IT 産業が発展することにより、地元中小企業の IT 化や IT による地域課題(高齢化社会等)の解決などの内発的な動きが出てくることを期待。

1. 縁結び

企業と人と島根をつなぐ

1-1 誘致に先駆けた島根との縁結び

縁結びコーディネータの設置

県外事務所(東京、大阪、名古屋、広島)に特別職を配置。
企業と人をつなぎ、県内企業のマーケティングのマッチングを図る。

県外企業の島根体験事業

対企業に地域資源を活用した体験研修を提案。市町村の『一社一村しまね』とも連携。
一定期間、島根に住んで仕事をする場合の支援制度の創設
島根での仕事のしやすさ、暮らしやすさを実感してもらう。テクノアーク活用。

県内ソフトIT企業 連合体構想

県内のIT企業が連合体となり、県外企業からの大きな仕事を受ける。

企業に対するワンストップサービス

誘致企業・既存企業ごとに専門担当者を付け、ホスピタリティをもって、継続的に支援。

1-2 将来を見越した人材戦略

企業の開発・研究部門の誘致に向け、島根の人材を雇ってもらう

島根に帰ることを前提に、都市部の企業に島根県出身者を雇ってもらい、将来の島根研究所設置を期待。

研究開発部門はIT企業のものであるので、誘致できれば将来の事業拡大が期待できる。

企業内の島根出身者をまとめてもらって島根進出を

大手企業には地方出身者が多数存在。そこで、企業内の島根出身者等を募って、島根進出してもらう。

3. 人

人材育成は かかせない

Ruby・Java などプログラミング言語を使える即戦力IT技術者を養成
大学・高専・高校・専門学校にRuby + Javaの学科や講座を創設する。

#カリキュラム作成、講師、資格取得等について Ruby アソシエーションと協力する。
職業訓練校でIT技術者を養成。

#卒業後の就職先を確保し、企業の即戦力を職業訓練で養成。また、県内企業で働く技術者を対象とした専門的な研修を実施。

インターンシップ受入助成

インターンシップ学生の報酬に助成金制度を創設、県内企業への人材供給を促す。

ソフトビジネスパークに県立大学情報工学部を設立

IT人材の供給源とする。
共同研究開発の新たなパートナーとなる。

IT産業を見据えた教育・研修の推進

IT技術者には、技術+コミュニケーション能力が求められている
学校教育、あるいは職業訓練の中でコミュニケーション能力を上げる教育を。
IT産業の担い手の裾野を広げるため、小中学校からITの関心を高める施策を展開

ITに関する奨学金制度の創設

IT人材育成助成金
優秀な人材を地域に留めるため、成績優秀な学生に奨学金を支給(県内 IT 企業に就職し一定期間経過したら返済を免除)
エキスパート奨学金

IT 先進国との交換留学を促進する。

1-3 優遇制度の検討

東京への移動補助金

従来の電気・家賃・通信費の補助に加え交通費を助成。

法人事業税の減免などの助成

特別に IT 産業のみ法人事業税を減免したり、IT 研究開発に上乘せ助成。
Uターン者への助成(市・県民税の減免、住宅費の助成、「こころ」の充実)。
企業の行う、学校への講師派遣や研究機関への派遣に対する優遇措置。

1-4 効果的な情報発信

広報・PRの手法を工夫

助成制度、特色など、島根の取り組みを積極的にPR(地元既存企業へも)。
重点分野の就職情報誌(年2回盆正月)の作成...フォトしまね・シマネスクのモデルチェンジ。

飛行機・JR・バスの座席シート、高速SS、県民全戸、全国の大学への配布。
ホームページの活用(企業誘致専門サイトを作成し、県トップからリンク。企業担当者の視点で)。
子育て世代へのPR...即戦力 20~30 代に島根でのワークライフバランス重視の暮らしを提案。

知事のトップセールス・県職員の営業マン化

優れた住環境、観光資源をアピールし、優遇制度、特色などを説明。
結局は「人」と「人」。縁を大切に。

4. 環境整備

しまねよいとこ、ブラッシュアップ

通信環境の充実

#ソフト系 IT 企業にとって、通信環境は生命線。さらなる充実が求められる。

ソフトビジネスパークでは、より高速な回線の確保(100Mb)
県内各所においては、より安価で高速な通信環境の整備。
中海宍道湖圏域で連携を促進するため、鳥取情報ハイウェイと接続。

島根大学とソフトビジネスパークの一体化

研究施設・図書館等の共有。
大学<=>ソフトビジネスパークの相互利便性の確保。

託児所・学童保育の充実

IT 産業の要、子育て世代の不安を解消。

ソフビジにコンビニ、保育所、医療施設の整備

誘致企業に仕事のしやすさや暮らしやすさを提供。

ソフト系 IT 産業誘致等検討グループ メンバー

島根県立農業大学校:	梅 博	土木部技術管理課:	三輪 健也
商工労働部産業振興課:	梅林 英教	健康福祉部医療対策課:	太田 貴子
商工労働部しまねブランド推進課:	志田原 崇	農林水産部農畜産振興課:	森脇 美紗子